

水道施設の強靱化をめざして

おいしい水を未来へつなぎたい

上水道の現状と施設整備

垂井町の上水道は昭和32年に創設され、昭和34年9月より第1水源地（不破中学校東）から給水を開始し、その後は給水区域などを拡張して現在に至っています。しかし、稼働後50数年が経った今、水源地の老朽化と耐震性能不足が懸念され、施設の更新が緊急の課題となっていました。

更新にあたっては、既存施設を運転しながら行う必要があり、建替スペースの確保と地震などの災害時のリスクを分散するため、配水ブロックを相川で分割し、平成19年には表佐地区内に建設した第2水源地から相川右岸地域（相川以南）への供給を開始しました。

これにより、第1水源地内の不要となった施設を撤去し、捻出した場所に建替が可能となったため、平成24年度から相川左岸地域（相川以北）の再整備を行っています。

いよいよ今年度から水源地の建替工事に着手します。また、北部の高台に飲料水を一時的に貯水する配水池を新設し、平成30年春に新たな配水方式による稼働開始を目指します。



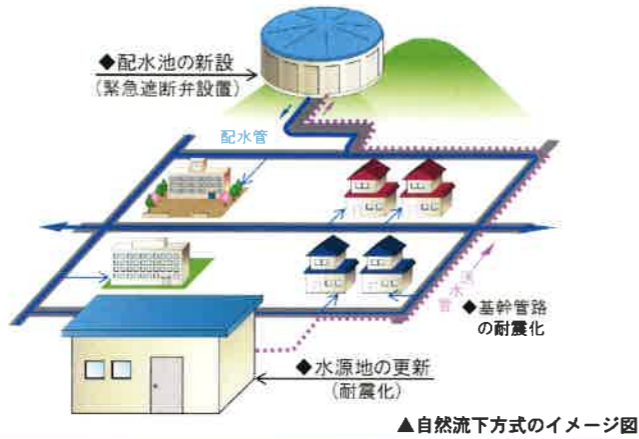
第二水源地（表佐）



更新工事が始まる第一水源地（綾戸）

○再整備の概要

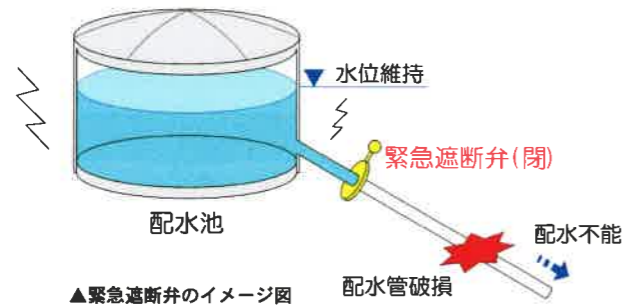
- ・第1水源地の管理棟を建て替え、耐震化を図ります。棟内の電気・計装・機械設備など主要機器の更新を行います。
- ・配水方式を変更します。現在の24時間常にポンプを稼働・供給する「ポンプ圧送方式」を、水源地から北部の高台へ新設する配水池に飲料水を一時貯水し、高低差を利用して供給する「自然流下方式」とします。
- ・基幹管路の耐震化を図ります。配水方式の変更に伴い、各地区へ配水する主要な水道管を再整備します。



▲自然流下方式のイメージ図

○相川右岸地域と同様の効果が期待できます。

- ・配水池を設けることで水源地の停電などによる断水が解消されます。
- ・地震による水道管の破損（漏水）など流量の急変を感知し、自動で閉まる緊急遮断弁を設置することで、震災などの不測の事態には応急給水用の備蓄水として配水池に確保されます。
- ・緊急時には右岸地域との相互融通を行うことができます。
- ・配水ポンプの運転時間が減少することで、維持管理など経費やCO2の削減による地球温暖化防止につながります。



町水道事業では、みなさんの健康や生活を支える垂井町の水を未来へつなぐため、水源地などの基幹施設の耐震化を図り、大規模地震などによる被災を最小限にとどめ、たとえ被災した場合であっても必要最小限の供給を可能にする「施設の強靱化」と「安全で安心な水道水の安定供給」を目指しています。



水道PRキャラクター「Dr.すいどん」

引用：水道PRパッケージ

問合せ／上下水道課 上水道係 ⑦番窓口（内線262）